

新 生

平成二十八年十二月 十日印刷
平成二十八年十二月二十日発行

新生第六十八巻 第四号

立冬や牧場の牛もおーと鳴く

小富士



東北新生園入所者自治会

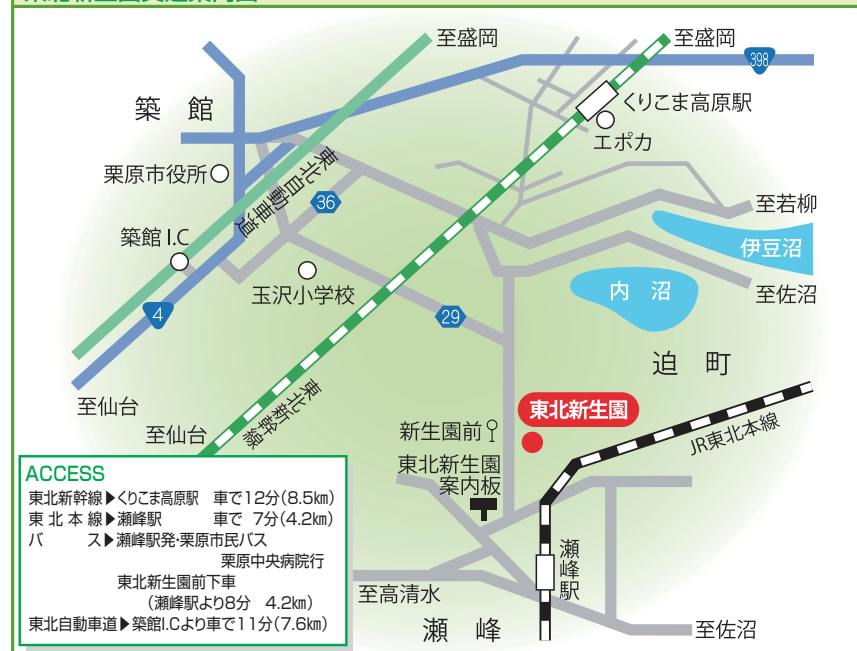
新 生

平成二十八年十二月 十日印刷
平成二十八年十二月二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男28名 女43名 計71名
職員定員数	151名（平成28年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第六十八巻 第四号

第18回寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会

— 平成28年9月30日 —

信子妃殿下お成り

大会参加者・
入所者の皆さんと
御交流されました



新田新生ビギナーズ



今回優勝の気仙沼クラブ



選手宣誓 昨年優勝
石巻ひまわりチーム

園内日誌

平成二十八年 七月～九月

《七月》

七日 新潟県藤楓協会慰問
東北新生園入所者自治会
発会七〇周年記念寄席
二十三日 第十八回花火大会
二十八日 福島県慰問
二十九日 岩手県健康国保課慰問

《八月》

八日 秋田県慰問
十六日 お盆行事（抽選会）

《九月》

七日 楓会発会七〇周年記念碑除幕式
楓会発会七〇周年記念
敬老の集い
登米市立新田中学校合唱演奏会
第十八回寛仁親王妃杯女子
コスモスゲートボール大会
三十日 （二〇チーム参加）

【謝寄贈図書欄】

平成二十八年七月～九月（敬称略）

多	磨	岡	山	県	邑	久	光	明	園		
高	原	群	馬	県	栗	生	楽	泉	園		
菊	池	熊	本	県	菊	池	恵	楓	園		
始	良	野	鹿	児	島	星	塚	敬	愛	園	
愛	生	岡	山	県	長	島	愛	生	園		
青	松	香	川	県	大	島	青	松	園		
甲	田	の	裾	青	森	県	松	丘	保	養	園
ハンセン病療養所に生きた女たち											
京都府 福西征子											

平成28年12月10日 印刷
平成28年12月20日 発行

発 行 東北新生園楓会(自治会)
編 集 楓 会 文 化 部
印 刷 川 内 印 刷 株 式 会 社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十八巻第四号……………目次

表紙…「牧場の朝」……………桃生 小富士

はじめまして……………看護助手・狩野 聡大…(2)
 お世話になります……………看護助手・小野寺 隼人…(5)
 随筆「杖」……………今野 きよし…(7)

|| 新生文芸 ||

詩……………選者・佐々木 洋一…(10)
 短歌……………選者・徳山 高明…(15)
 俳句……………選者・山田 桃晃…(16)
 川柳……………選者・栗石 隆子…(18)
 定年退職を迎えて……………医事係長・佐藤 昭彦…(20)
 定年退職を前に感謝……………自動車運転手・白鳥 篤…(22)
 思い出……………副調理師長・佐藤 公男…(26)
 私の三十七年の思い……………調理師・千葉 淳…(27)
 随筆「明り」……………調理由理師・今野 きよし…(28)
 四コマ漫画……………原作・桃生 小富士…(32)
 香川県高松市立国分寺南部小学校五年生の児童の皆さんよりの手紙・絵
 園内日誌・謝寄贈図書

はじめまして

看護助手

狩野 聡 大

今年の四月から新生園の第二メーブルケアセンターで、看護助手としてお世話になつて
いる狩野聡大（かのあきひろ）といます。

こちらに来てから早くも半年が過ぎました。
本当にあつという間の半年で、時の流れの早
さに改めて驚いています。

せっかくペンを執る機会をいただきました
ので、簡単に自己紹介をしたいと思います。

学生時代は運動が大好きで、小中学校は野
球部、高校からはバレーボール部に所属して
いました。野球をやっていた頃は、朝から晩

までボールを追いかけている野球小僧で、今
思い返してみても、あの頃の自分の無尽蔵な
スタミナには感心します。

そんな野球少年が、中学時代偶然つけたテ
レビで、放送していたバレーボールに魅せら
れ高校からはバレーボールを追いかけること
になりました。しかし競技を変えたことで挫
折を味わうことになりました。

小学校からやっていた野球では、恵まれた
体格でチームの中心選手として活躍できたも
の、高校から始めたバレーボールは素人同
然のレベルで、バレーボールの基礎と言われ
るレシーブはからつきし下手クソ、オーバー
ハンドパスさえまっすぐ飛ばない有様でした。
この頃流行っていたスラムダンクのバレー
ボールバージョンだと表現すれば分かり易い
でしょうか。しかしながら自分が好きで始め
た事、努力を惜しまない性格が功を奏し、ス
パイクとブロックだけでレギュラーを獲るこ
とができました。これぞ好きこそ物の上手な

れを地で行く格好となりましたが、地区で優
秀選手賞を受賞した高校三年生の時でさえ、
レシーブはチームでも最下位を争うレベル
だったことは言うまでもありません。

バレーボールは本当に大好きで高校卒業後
も大学、社会人のクラブチームと二十八歳で
引退するまで続けました。

ここまで運動の事ばかりを書いてしまいま
したが、仕事の方かというと、大学で保健福
祉を専攻したのがきっかけで、卒業後、介護
老人保健施設に介護職員として就職しました。
そこから十二年にわたり介護老人保健施設、
デイサービスセンター、デイケアセンター、
特別養護老人ホームと介護保険事業に携わる
仕事を介護職員としてやってきました。

なぜ介護の仕事を選んだのか、自分をよく
知る友人達からはお前と福祉は相反するとか、
おまえがしっちゃ駄目な仕事だろうなんてこと
を言われます。自分でも福祉というものにそ
こまで執着心や情熱がないのも自覚していて

理由らしきものを探し求めても、明確な理由
を探し当てる事が出来ないというのが本当
のところ です。

さて先ほどもお話ししましたが、ここ新生園
にお世話になつて早くも半年が過ぎました。
十二年間介護の仕事をしてきましたが、新生
園の看護助手の仕事は、名目は同じ介護と
言っても私が経験してきたものとは全くの別
物で、働き始めた当初は戸惑いの連続でした。
それでも私が挫折せずに今も続けていられるのは、
先輩方の親切な指導のお陰だと思っています。
トマトの皮むきや植物への水やり等、新生園
で初めて経験させていだいて、改めて無知
なままの人生を過ごして来たのだと反省しつ
つ、日々勉強になると実感しています。

また、こんな新参者の私に笑顔で話しかけ
てくれる入所者の皆さんにも何度も救われま
した。実際自分には今年八十八歳になる祖母
がいますが、その祖母と同世代の入所者の皆
さんから見ると、自分はちょうど孫の世代に

当たる年なのだと思います。

幼少の頃、両親が共働きだった自分は祖父と祖母に育てられた経緯があります。そんな私にとって入所者の皆さんとの関わりは、様々ながらみやジレンマを逸脱して素直に対応することが出来るのかも知れません。おそらく自分が介護の仕事を続けてきた答えは、お年寄りと関わるのが好きなのだという事なのかなあと漠然と考えたりしています。

半年が経過して、一通り通常業務は覚えたところですが、まだまだ至らないことばかりで、先輩方や入所者の皆さんにご迷惑をおかけする事も多いと思いますが、少しでも早く、また少しでも多く仕事を覚えて皆さんのお役に立てるように頑張りますので、今後ともよろしく願います。



お世話になります

看護助手

小野寺 隼 人

こんにちは。四月一日より第一メーブルケアセンターに勤務しております、看護助手の小野寺隼人です。

介護員として新米なので、分からない事が多く迷惑をお掛けするかと思いますが、一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

私は新生園に勤務する前は、ずっと接客業をしておりました。これまで、介護職には就いた事ありませんでした。

そんな中なぜ介護職である新生園に勤務し

ようと思ったのかは、私は学生時代に保育士になりたいという夢があり、それと同様に介護職にも興味がありました。

その為、高校卒業後は仙台にある仙台リゾート&スポーツ専門学校のスポーツ保育科に進学するつもりでおりました。

オープンキャンパスや体験入学などに参加し、その専門学校に進学するつもりでした。しかし「今の時代、少子化の為、保育の仕事は先が心配なのでは？」など、進路相談で聞かされ、自分なりに介護の方にも興味があるなら介護の道でも良いのでは？など、いろいろ考えた結果、保育士という夢を諦めてしました。

その後、高校卒業後は保育や介護の仕事に携わる事がなく普通に就職しました。保育や介護の他に、私は服も好きなので服屋で働き始めました。服屋では接客や対応はもちろんの事、売り上げや個人個人のノルマ等、色々と大変でしたがやりがいのある仕事でした。

そんな中、一緒に働いていた先輩が店を退職することになり、理由を聞いたところ「アパレルの仕事は若いうちしか働けない。三十代、四十代になってアパレル店員として働いている人は少ない」と聞かされ、私は確かにその通りだし、一生続けていける仕事ではないと思えました。その頃から一度は諦めてしまっただけ、もう一度保育や介護の仕事に携わりたいと思うようになりました。

それから服屋を辞め、新たに就職活動を始めました。就職活動をしていく中で新生園の求人募集を拝見し、介護の仕事の第一歩になればと思い、応募させていただきました。

入職してから八か月が過ぎようとしていますが、実際あつという間に過ぎました。一日の流れ、仕事の面など、先輩方にもいつも迷惑をかけていると思います。それでも一つ一つ分かりやすく教えて頂き、本当にありがとうございます。

新人の私に対し温かく迎えて下さった入所

者の皆様、職員の皆様に感謝しております。
まだまだ新米ですけれど、これからもどうぞ宜しくお願い致します。



随筆

杖

今野 きよし

私が杖を突き始めたのは、今から二十年前の事である。

道で転んで頭骨骨折をして、国立仙台病院に入院したときからである。

三ヶ月入院したそのときから、私の歩行になくはならないものとなった。

始めのうちは杖の使い方が未熟で杖を壊すこともあったが、そのうち使い方も慣れて、今では外ばかりではなく、室内でも杖を使うことが多くなった。

たまには杖を使わず室内を歩いてみると、腰が痛くて杖のお世話にならないと歩けなくなった。

また杖を見失うこともある。つまり置き忘れをすることもある。ああ杖はどこに置いたと声をかけてみても、目の見えない妻には分からないし、誰の返事も帰ってこない。その時はもう一度室内を探してみると、必ずどこかに置き忘れていた。

今は用事があるときは、車いすのお世話になりながらも、杖は離さずに持ち歩くようにしている。杖は突いても突かなくとも、私のそばに置くようにしている。

朝起きて、看護師さんに体の処置をしてもらった後に、着替えたパジャマを片付ける時にちよいと杖を使ったところ「鉄は使いようというけれども、杖も使いようですね」と出た。五年ばかり前にも、ふる上りの靴下をはく時、看護師さんが手を貸そうとしてくれ「私が自分でやります。機能訓練ですから」と言ったところ「今日やっても明日やっても機能(昨日)訓練ね」と言ったのを思い出した。ユーモアのある看護師さんである。

祝 敬老の集い
おもだか秋子・郷みん's 公演会

平成28年9月16日



私が杖を使って手の代わりをやるようになったのは、今から六十年も七十年前も前の事を思い出したからである。

私が叔母さんの家に手伝いに行った時、叔母さんの家は鳴瀬川のすぐ側にあつたので、五月六月になると、そちらからこちらからと牛車や馬車を引いた人が河原に草刈りに集まってくる。

その中に牛車に乗って来る中学一年くらいの男の子が居た。その男の子は草を刈る時に、左手に松葉杖を握り、右手に鎌を持って上手に草を刈っていた。杖と鎌の先で草を集めて籠に入れて牛車で帰って行った。

そのことが思い浮かんで杖を使うようになった。私はその他にも杖を使ってやることがある。このやり方は直さなければと思いつつ、風呂に入る時に風呂介助の方が側にいた時に、下着を脱いで片付ける時に杖を使ってしまう事がある。

すると耳元でクスツとしたような気がした。このやり方はあまり良い杖の使い方ではないなあと反省させられる。

鋏も杖も使いようと言ったが、これから杖を使う時は、気を付けなければと思わされた朝の一時である。

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《熊 騷 動》

北 辰 一 硯

新田地区に熊が出没して
テレビで何回も放映されていた
田圃の畦道を駆けっこを
している子熊のように映っている
親熊が近くにいるのだろうか？
その後も三人、四人ほどの

目撃者がいた
北海道のヒグマは立ち上がると
二メートル位。ツキノワグマは
一メートル二十センチから五十セ
ンチ位だと言う。時速は六十キロ
との事だ

秋田県ではタケノコ採りの人が
四人も熊に噛み殺されている
射殺された熊の胃から
人間の肉片が出て来たという
正に人食い熊で恐ろしい話である

一週間位経つころには
東北本線を跨いで熊が
新生園方面に近づいているという
園内放送が流れる
警戒するように・・・
用のない方は外出しないように

物々しい放送がスピーカーから流れる
五百メートルほどの大浦地区にも
熊が出たという。いよいよ園内にも
来るのかもしれないと
恐怖感が募る話が合う人ごとに
治療に行っても熊の話題一色だ

当直の職員の園内夜廻りもいやだとか
熊にあったらどうしようとか
熊が自動ドアを開けてSさんに
こんばんはと来たら
餌をあげるかいとか
ユーモア的な話まで飛び出している

私は入園して六十五年になるが
今まで一度も熊の出た話がなかった
今年は全国的に熊の被害が
各県等で報じられている
先日東北高速道で車にぶつかって

熊が死んでいたニュースがあり
女の人は怪我がなく車が前の部分が
壊れ大惨事にならずに済んだという
人間と熊が共存出来ないのも
温暖化なのだろうか
山に雪が降らず例年の半分
熊の目覚めも早く食べ物も少なく
熊の住む山の木も伐採され
ドングリ等の食糧も少なくなり
里山は荒放題
熊は山から下りて来るのが容易になり
舗装道路を闊歩する親子熊が
たびたび放映されている
実に威風堂々全国版である

人間の住む里山には美味しい物が
沢山あり子育てには格好の場所と
決めているのかも知れない
一昨年はドングリなどの食糧が豊作で

熊のベビークラッシュとのことだ
今年は熊親子の餌不足となり
里山に下りて来ているとの見解である

園内の熊騒動も一週間位経つが
熊が何処へ行ったか発見者の声もなく
もう終わりかと思つた途端
こんどは板橋地区に熊が出たと言う

昔は私達の散歩コースであり
知つてゐる人も居り園内に最も近い
場所の三ヶ所で熊発見と言う
そうすれば熊が三匹いるかも知れない
でもなければ夜の内に
里山を移動しているとも考えられる
犬と見間違えたとか
いろいろ話に尾鰭が付いて
賑やかである

熊が居るのは確かであり注意を怠らず
療養生活に一石を投げ込んだ熊も
澱んだ園の空気を浄化して呉れて
有り難いと思う私である
被害のない事を願ひながら・・・

【選評】

《熊騒動》

北辰一硯

近くでの熊出没の話題により、園内の緊張した様子や和んだ雰囲気がよく出ている。
「療養生活に一石を投げ込んだ熊も／澱んだ園の空気を浄化して呉れて」と、作者が捉えたことで、この詩はより生きた。

◇ 佳 作 ◇

《夏の朝日》

今野 きよし

デイルームの
東の窓に
真赤に燃える
朝日の光り
一目見ようと
足運ぶ
光りは強く
とてもまともに
見られない
じつと見つめた
眼が痛い

真赤真黄と

あまりに強く

物見ることの
できないほどに
視力が失われ
眼を閉じて
時間をかけて
やっこの思いで
眼を落ちつかせ

少しずつ物見る力

取り戻す

先ほどは

まともに朝日

見てしまい

これは大変な

ことをした

もう一度

朝日の色を思い出す

外側赤く
その中黄色
真中は白く
強い光りを
まともに覗き
物見る力
なくしてしまふ
危険と知りつつ
話に聞いてはいたが
やってはいけないことを
朝日の光り
いつのまに
やさしい色に
見えて来た

短歌

徳山高明選

◇入選◇

合掌の中でほほえむ亡き父母の姿なつかし盆を迎えて
北辰一 硯

【選評】

今年もまた盂蘭盆を迎え、古里の亡き父母を偲ぶその合掌の中で、在りし日のように父母はやさしくほほえむ。入園以来帰ることの、あるいは出来なかった父母への限りない追慕の情がにじむ。

原爆忌七十一を迎えしに苦しむ人あり老いたる今に
北辰一 硯

【選評】

今年は七十一目の原爆忌であつた。原爆投下は、情け容赦のない無差別殺人と同じ。あの日に生まれた赤ん坊が今は七十一歳、すべて老人であり、後遺症に苦しむ被爆者は多い。厳しい批判の国がある。

何事か声を大きく一人言妻は希望を言葉に出さず
今野 きよし

【選評】

妻が大きな声で、何か独り言を言っている。今にさえも園内は外部と交流の少ない閉鎖的世界なのか。子供もなく二人きりの生活である。絶望的な妻の嘆きを優しく見守る作者の気持ちににじむ。

◇ 佳 作 ◇

北 辰 一 硯

その昔熊狩りをした名残かも熊狩りと
言う地名残れる
合掌をすればご先祖安らかに心の中に
浮かんでほえむ
魂を一気に燃やすみちのくの夏は短く
跳ねて踊りぬ

今 野 きよし

そちここに台風の被害多くあれば吾が家
逸れたと喜びおれぬ
禁煙と書かれし廊下にほんのりとたばこ
の匂いの流れて来たり

斎 藤 照 雄

陸奥に一足早い雪だより

【選 評】

陸奥と云う国名は明治以前、陸
中・陸前・磐城・岩代を合わせて
陸奥と称されて居たそうである。
一足早い冬將軍が来る陸中の国、
今年は其の通り雪だよりが目の前
に来てゐる。一年の早さである。

今 野 きよし

握手せし温もり今も菊日和

【選 評】

何の宴だろう、菊祭りなのかも。
演歌手とあるから、本職の歌手の
方を交えてのユーモア、背伸びし
て澁刺と握手の温もり、なんと楽
しい刻を過ごされたことでしょう。
生きている喜び、生きる喜びがある。

俳 句

山 田 桃 晃 選

◇ 入 選 ◇

園 永 泊

何気ない欠伸氷柱にのぞかれり

【選 評】

直接氷柱に巡り合つた時の感動
を、今も忘れない。何気ない欠伸
が氷柱にのぞかれたと云う。澄明
な詩韻のなか、鮮やかに、作者の
心を読み取る側に異常な感情の姿
を感じ取れ、たのしく思う。

◇ 佳 作 ◇

今 野 きよし

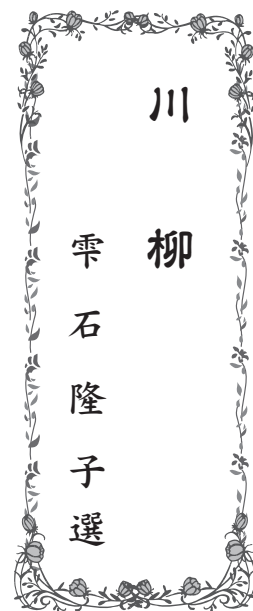
演歌手とマイク交互に菊日和
ユーモアを交え唄うや菊日和
背を伸ばし唄澁刺と菊日和

園 永 泊

ふろしきを逃げた話題に山笑う
政治家へ野心まんまんつくしんぼ
口論の末の爛酒ほろ苦い

斎 藤 照 雄

故郷へ続く道々いなご飛ぶ
狂い咲くつつじの丘に人の山
山寮の池に飛来す冬の使者



川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》
齋藤 照雄
腹抱え笑った後に腹が減り

【選 評】 笑いの効用はいろいろあるが、お腹が減って食欲増進するのも効の一つ。笑うことで血流をスムーズにするとも言われ、ストレス発散になり、長生きの秘訣に「笑い」は欠かせません。

◇ 佳 作 ◇

齋藤 照雄
用済んだ案山子無残に雨ざらし
ハ氏病に勝った勝ったよ無菌症
無菌症家族みんなに見せてやり

長沼 蓮花
前進め悔し涙が喝入れる
乗る前に呼吸を止める体重計
箱いっぱい野菜と一緒に愛情も
シュレッダー私の不安も刻みけり

桃生 小富士
耳遠く世間話も遠くなる
震災へ雨が追いかけて降る
寝転んで一人じめする青い空

《地位》
桃生 小富士
万国旗風がなければ元氣なし

【選 評】 アメリカの次期大統領にトランプ氏が決まった。世界中が暴言王と揶揄する氏の動向に戦々恐々としている。まさに何もなければ静かな世界だが、今やトランプ氏の出現に世界は、嵐の前夜のようなある。

《天位》
桜山 南線
骨の節々老人の詩になり

【選 評】 七七五の作品。「老骨に鞭打つ」の言葉があるが、生きたすべてが詩になる。これからも人生の喜怒哀楽を詠んで、沢山の足跡を残してくださいね。

千 歩
おかわりでカロリーハーフゼロになる
踏まれてもグレずに伸びるねじり花
謙虚だと褒められ急に口ごもる

桜山 南仙
菜畑を舞台に踊る蝶々かな
明日といういのちを約す夕日です
あの世への時計の針を遅らせる

今野 きよし
ちよっとした失敗いつか武勇伝
何げない顔で聞いている記者の耳
あの人は遊び上手と褒められる

定年退職を迎えて

医事係長

佐藤 昭彦

来年三月三十一日で定年を迎えることとなりました。

昭和六十年九月に群馬県の国立療養所栗生楽泉園に採用になり、約三十一年間の公務員生活にピリオドを打つこととなりました。

新生園には平成十八年四月に配置換えとなり、十一年間お世話になりました。

転勤当時は、入所者の皆さんも約百六十名おられました。現在は七十一名まで減少され、参加される行事等についても、春、秋の

バス旅行、光のページェントバス旅行、夏まつり、花火大会、パネル展、演芸慰問関係等、最盛期と比べ数少なくなっています。

私が転勤になった当時は、観桜カラオケ大会やゲートボール大会などに参加しましたが、最近では職員と入所者の皆さんと一緒に参加できる行事が、数少なくなってきました。のが残念です。

福祉室も転勤当時は、総勢三十六名の大所帯でしたが、今は十五名と少なくなり、特に男子作業手は、当時十六名いた人員が現在は五名となっています。

福祉室での一番の思い出は、平成十八年四月に二十二棟建っていた一般寮が、平成二十一年に寮の取り壊しが始まり、現在では六棟となっていました。

その後、自治会長の「寮の跡地にパークゴルフ場を作れないか」という一言から、男子作業手が重機を使い、更地になった寮の跡地

にパークゴルフ場や公園を作りました。少なくともった人員で日々の作業に加え、パークゴルフ場作成という男子作業手のパワーには特に感心させられました。

福祉室、男子作業手、楓会、盲人会、理美容の皆さんにはいろいろな面で助けていただきありがとうございます。

私事になりますが、私の息子たちの関係で平成十七年から小学生の子供たちに月見レッドアーマーズというドッジボールクラブで毎週土曜日、日曜日と祝日九時から十七時までドッジボールに教える事となりました。

はじめはドッジボールについて、ただのボール投げの遊びと思っていましたが、チームに携わることによりだんだん熱が入り、気がついたら審判の資格も取るほどのめり込んでいました。

チームも埼玉県や茨城県の大会に毎年出場するほど全国的にも有名なチームなので、ほ

んど毎月、他県の大会参加や遠征などで土日の方が忙しく、平日仕事をしていた方が楽だったというイメージがあります。

そのドッジボールも今年度から代表を交代していただき、好きなときに行けばいいように調整していただきましたが、チームが主催する日本三景松島スパーカップには、責任者として出てほしいという事を言われているため、今後もお手伝いをする事としています。昨年と比べ運動量が落ちて来ているので退職後も何かしらの運動はしていきたいなと思っています。

最後になりましたが、入所者の皆様、職員の皆様ありがとうございました。

定年退職を前に感謝

自動車運転手

白鳥

篤

この度の新生誌の原稿依頼にあたり、多くの定年退職者の方々を送り出してきて、ついに私の番が来たかと思うと、長い間よく勤めて来たなと嬉しい気持ちになりました。私は昭和五十五年八月、定員見合賃金職員・職名「義肢工作手」としての採用で、義肢、補装具、補助具の制作をし、作業返還最後の職場と聞きました。

右も左もわからない私に指導協力していただく方は誰一人なく、不安な日々。そこで当時の小野寺事務長にお願い出て、技術習得の

為に仙台の義肢製作所へ。

その頃は土曜日（半ドン）勤務してから、毎日午後自車で通う事六ヶ月間、自宅への帰宅時間が午後十時でした。

製作所へ入所者のモデル（足の型）を持参し、スタッフからご指導をいただきながら、なんとか下肢制作が出来るようになりましたが、色々と難しいことの繰り返しで、完全な製品として提供するまでにはかなりの時間がかかった事を思い出します。

例えばとっても柔らかい薄い皮革（牛革〇、七mmクロム皮）を補装具の中に貼ったりしたら、その部分だけ表皮剥離、出血、赤くはれたりする事が多く、頭の中で考えている制作工程も、工夫が必要で大変苦労しました。そんな時、最初の義肢工作室への来訪者（依頼者）は今も元気でいます、あの当時一般療「雲雀寮」在室者の渡辺泰広さんでした。

下肢使用（両側に鉄製の平棒、足底部に鉄板入り、紐編み上げ式ホック）で「俺はこう

いう補装具使っているの、靴の代わりとなる履物が欲しい。工夫して作ってください」と。

そこでご本人発案の長くつを短く切り、切り開いて切り口を皮革で縫い合わせ「ブーツ型」に変化し、雲雀寮まで届けました。そうしたら泰広さんは、改造したブーツを履いて部屋を歩き回り、その後玄関に立ち、外に出て歩く姿、あの喜び、あの笑顔が忘れられない良き思い出として蘇ります。

その後、長下肢装具（PTB）を装着し、不自由な体でもゲートボール場でスティックを持ち、ボールを追う姿も懐かしく思い出します。渡辺泰広さんのお付き合いが出来た事を、本当に嬉しく思います。泰広さんお身体お大事に。

十三年余りの間、義肢工作手として治療等（旧リハビリ）で過ごし、機械等の設備も少しずつ整えて頂きました。当時眼科の診察、手術で多磨全生園へ行く配車（今でいう委託診療）に合乗し、モデルを持参して、数多く

の補装具を全生園のスタッフの方々の協力もあり、制作したことも懐かしい思い出です。

また全生園の中谷先生も三ヶ月に一回平均で来園し、装具、補助具の制作指導もあり、その中で「足穿孔症」の装具はかなり作りました。中谷先生が来園時は、外科処置室へ呼び出しがあり、必ず修正指導あったことも思い出します。中谷先生は気さくな方で親しくさせて頂きました。

また全国十三園の義肢工の研修会が、邑久光明園に在職する恩師、西田富雄氏を講師に迎えて行われ、富士山の裾野にある駿河療養所で一週間過ごしました。

十三園の仲間との情報交換、制作する際には依頼者との綿密な意見交換をし、経過観察等が最も必要なことと、強いお教えであったことも思い出しました。さらに目の前にそびえ立つ壮大な富士山の雄姿を滞在中、毎日見られたことも良き思い出です。未だに悔いの一つ残る事は義肢工作手改め、義肢装具士（義

新田中学校 交流演奏会

平成28年9月16日



肢装具士法制定）国家資格免許取得後、従事出来ないことが残念でなりません。

平成五年福祉室勤務の自動車運転手として配置替えとなり、その頃は入所者の方の遠方までのバス旅行もありました。

県人会旅行（一泊）各愛好会の旅行等もありました。私も入所者の方も若かりし頃、盆栽愛好会の栃木県鹿沼市への日帰り旅行は、朝早く出発、帰園が午後八時頃でハンドルを握る者としても、少しハードな旅行だったと記憶しています。

今現在は委託診療に伴い、外部の医療機関への送迎が毎日のようにあり、安全運転で走っています。その合間に福祉の業務に携わっていますが、年々職員の数も大幅に少なくなり、この広大な敷地の環境整備、草刈り、芝刈り、樹木の剪定に伐採、パークゴルフ場の維持管理、建設車両の運転、十二月のクリスマス、イルミネーションは毎年飾りがパワーアップしてメープルセンター中央に備え

付けますが、高所恐怖症の私も高所作業車に乗り込んで、ちよつと気にしながらも作業します。

入所者の方から今年も綺麗だと言ってもらえるよう飾り付けますので、ご覧ください。

また年間の諸行事も多種多様と様変わりし、老体にムチ打って、若い人達の足を引っ張らないように努めております。三十四年余りも従事すれば色々懐かしく思い出します。

最後の結びとして、今日を迎えることが出来るのも、入所者の皆様の心優しさ、職員の皆様、家族の支えがあったことを感謝しております。

入所者の皆様、これからもお身体を大切に、元気に一日一日をお過ごし下さるよう、心からお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

思い出

副調理師長

佐藤 公男

私は昭和五十四年十一月に採用され、三十六年が過ぎました。

最初に配属されたのは、福祉室の作業手として配属され、何もかもが初めての事で戸惑う事ばかりでした。

仕事の内容は、主に給食の配飯、残食回収、ごみ回収、草刈り、木の枝切等の業務がありました。

福祉室では十年間お世話になり、その後調理師の免許を取り、平成二年に給食の職員と

して採用されました。

二十六年間の思い出としては、夏に行われる夏祭り、花火大会では私は綿あめを担当させて頂きました。

秋には新生会館で屋台祭りがあり、私は焼きそば担当になり慣れない事でしたが、何とか周りの職員の方の協力があり、二つの仕事を十七年間に渡り、こなすことが出来ました。

自治会の久保会長さんとは長い間、一緒にマラソン大会に参加し、楽しく走ることが出来、人生の一番良い思い出になりました。

私は来年三月三十一日に定年退職となりますが、今日まで入所者の皆様、職場の皆様に支えられて無事に過ごす事が出来ました。本当にありがとうございます。

良い思い出となっております。

今から二十八年前、私は入所者の方々とゲートボールを始めました。その頃は入所者の方々も皆さん元気で、ゲートボールをする人が沢山いて、みんなで練習しました。

園のバスで県の大会に出場し優勝、全国大会に宮城代表で出場しました。この事もとても良い思い出となっております。

給食には二十一年間お世話になりました。

楽しい事だけではなく、辛い事もありましたが、無事に勤める事が出来ました。

最後に、私は来年の三月三十一日に定年退職を迎えますが、入所者の皆様、職員の皆様のおかげで、三十七年間新生園で無事に勤める事が出来た事を感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

私の三十七年の思い出

調理師

千葉 淳

私は昭和五十五年十二月に東北新生園に採用され、最初は福祉室に配属され、自動車運転手兼作業手の仕事でした。

作業手の仕事は何もかもが初めてで、戸惑いの毎日でした。園内は広く、夏は毎日のように草刈りや園の公園の木の剪定など、色々な作業をしました。

春には盆栽愛好会の方々と盆栽を買いに、栃木の鹿沼まで行き、秋には菊愛好会の方々と山形の南陽まで見学に行きました。とても

私は夜中に目が覚めると暗いところが嫌になり、明りをつけてからトイレに行く準備をする。腰の痛みを和らげるため、体を動かして起きるようにしている。

部屋が暗いといつも気になって、さびしいような、悲しいような気持ちになる。だから明りを付けると気持ちも明るくなり、誰かに話しかけたい気持ちになる。夜中に声を出して話することは出来ないで、補装具を付けてトイレに行く。支度して看護師さんに来てもらい、トイレに行くようにしている。

昨年六月一日に夜中に部屋の中で転んでケ

ガをして、その時「夜中にトイレに行くときは自分一人では行かないようにね」と言われた。

最初はすまない気もしたが「気を使うことはないからね。そのための当直ですから」と言われた。私は「まだ目も見えるし」と思ったが、夜中に起きると寝ぼけ眼で居る自分に気が付かせられる。

看護師さんから見ると、危なくてハラハラの連続に見えるかもしれない。ありがたいことで「はい」と言わなければならぬ。

以前知り合いの人が、介護員さんが声をかけてくださった時、断り続けていたのを見たことがある。私はやらないようにしなければと思って見ていたが、私もそのようになったと考えさせられる。

夜、目が覚めた時、明りをつけて只ばおーっとしていたい時がある。夜中に明りをつけていると、具合が悪いのかと心配をかけるから

寝てしまう事もある。年齢とともに早く目が覚めてしまう。

私はナイターが好きで、季節になると夜遅くまで見ているので、夜九時を過ぎ十時になっても、もう少しもう少しと気にしながらテレビにかじりついている。当直の看護師さんは明りがついていると、気になるかもしれないとテレビのスイッチを切って休むようにしている。

明りはいろいろの事を教えてくれる。私を慰めてくれるのは照明、つまり明りである。明りは人の心を和ませ、希望を与えてくれる。日が暮れると、私の部屋から街灯の明りがよく見えて来る。レースカーテンを透かして見える街灯の明りは全部で二十数個もある。

街灯の電球の種類もいろいろあるようで、赤く見えるもの黄色く見えるものがあるようで、バラエティーに富んで退屈しない。

街灯の明りは私の心を和ませ、喜びを与え

てくれる。明りを見てみると、何も考えないでただじっと見つめているだけで心が和んできく。

外灯の近くに住んでいた療友の事が目に浮かんでくる。私が大病を患ったとき、大変お世話になったこと等、今も目の前に居て会話をしているように夢を見ることもある。種々の事を思い出せれて、不思議な気持ちにさせられるのはなぜなのか、私にはよくわからない。会えるものならもう一度会って話をしたい。街灯の明りから横道に逸れてしまった。

朝になり目を覚まして外を眺めていると、照明の消えた電柱、まだ明りのついている電柱もある。消えた電柱を見ていると、忠臣蔵の大石良雄の物語が思い出される。昼行灯と言われた大石良雄、のちにあのような働きをするのである。

また二十数年前、あるいは三十年になるかもしれないが、ゲートボールが盛んな頃、夕

東北新生園入所者自治会 「楓会」創立70周年記念碑除幕式

平成28年9月7日



「楓会」発会70周年記念物故者慰霊祭

平成28年9月7日



方になるとゲートボールの好きな仲間たちが集まり、夜遅くなっても帰ろうとしないで、しまいにはその辺にあった棒を立てて電線を張り、明りをつけてああだ、こうだと各々に大声を出し、一球一球スティックを振る度、歓喜の声を出し遊んだのが、ついこの間のような気がする。夕方のゲートボールは日中とは違った味わいがあった。

その後ゲートボール場の近くには園内でも有数の街灯が設けられたが、ゲートボール愛好者の健康が勝れず、ゲートボール場に足を運ぶ人は稀になった。

私の部屋から見える街灯を見ながら、過ぎし日の事を思い浮かべている。

夏が過ぎ、立秋、中秋の名月、晩秋、冬至も近くなると最高に明りが恋しくなる。何かの都合で明りがなくなると、この世の終わりのかと思うほど暗い気持ちになる。

そんな時に起きたのが、五年前の東日本大

震災である。その時は五日も六日も停電が続き、暗い気持ちになり不自由な生活を送ったことが思い出される。

私達入園者の生活に、停電で電灯の電池が必要になった時、園長先生が先頭になって電池を工面して下さり、職員の方々が業務を果たして下さったという事だった。

いかに明りが私達の生活に密接な関係があるのか、身に染みて考えさせられた。

私は震災後、五、六日経った頃少しずつ暗くなり「今日も明りがつかないのか」とじつと電灯を見つめている時にパツと明りが付き、思わず「ああ」と声を出してしまった。あの時の気持ちは今でもついこの間のような気がして、明るい気持ちにさせられる。

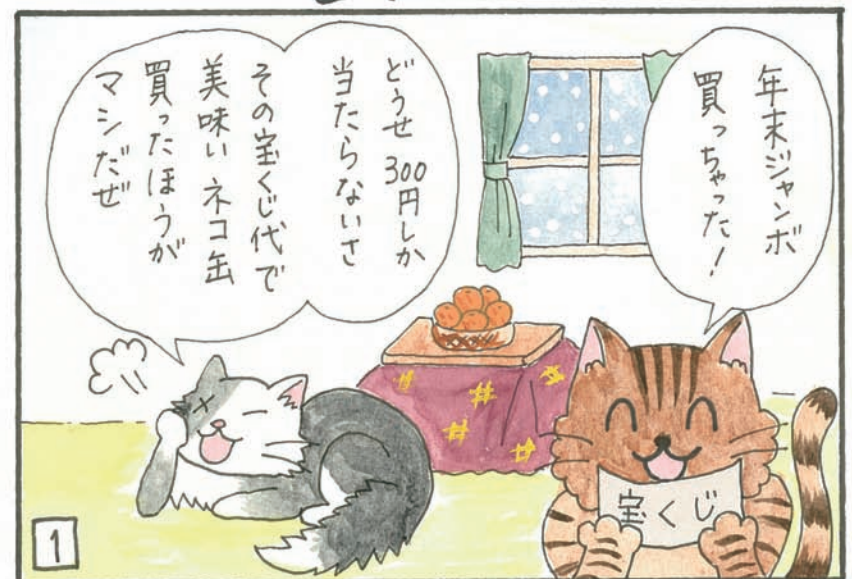
生活に必要で密着していたものと、つくづく考えさせられ、明りのありがたさが身に染みて嬉しくなった。

原作・桃生小富士
まんが・比村 小蝶



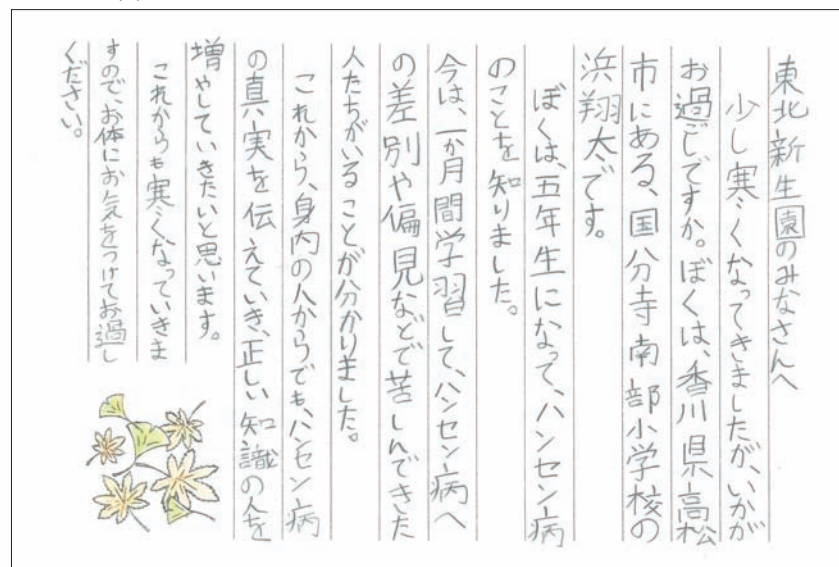
4コマまんが

宝くじ

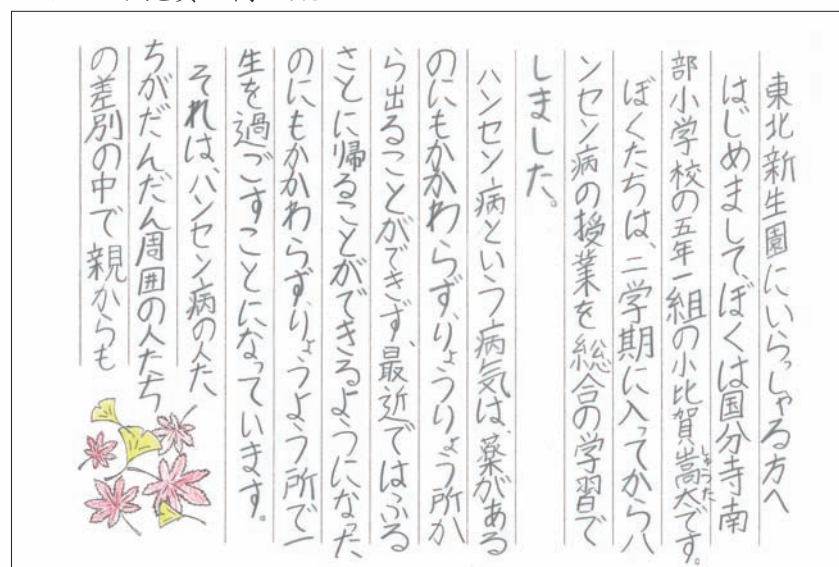


児童の皆さんからの手紙は原文のまま掲載させて頂きました

5年生 浜 翔 太



5年生 おびか しゅう た 小比賀 嵩 太



香川県高松市立国分寺南部小学校の 児童の皆さんよりの手紙・絵

香川県高松市立国分寺南部小学校
5年生担当 教諭 井上 泉
教諭 羽原 幹子

秋も深まり、山の木々も色づいた葉を落とす季節となりました。

私たち国分寺南部小学校5年生は総合的な学習の時間に9月からハンセン病についての学習に取り組んできました。

学習した内容は、香川県のハンセン病資料を中心に、歴史、療養所での生活、国立療養所多磨全生園の平沢さんの講演、塔和子さんの詩など、貴重な資料を参考にさせていただき学習を進めてきました。

この学習を通じて、子どもたちは少しずつ人として偏見や差別の実態をどう見るのか、そしてこの後自分がどう行動していくことが必要かを考えていくようになりました。そして、学習の最後のまとめの中で、何か行動したいという子どもたちの思いから全国すべての療養所に手紙と自分たちが作った絵を送りたいということになりました。

小学5年生のことですので、稚拙で言葉足らずのところもありますが、みなさまへの励ましにならないかと考えて準備したものです。ぜひ子どもたちの思いを汲んでいただき一読していただければ幸いです。

朝夕の気温がかなり下がるようになってきました。療養所にいらっしゃる元患者さんはご高齢の方も多いことと思います。お体に気を付けて元気にお過ぐさください。

離れ家に帰てもだれもが迎えに
来てくれず、親せきの人からも消
えていないものとされてきた歴
史があたからずです。
日本で、かん者さんがまちがった差別
をされてきたのは病気に對して「わ
い」「遺伝するのではないか」「治らな
い」など思ってきたからです。
そんな中でぼくたちはどんなこと
に氣をつけるべきでしょうか。
それは、ぼく自身がまちがった差別
をしないようにして、もし差別をし
てしまった場合それに氣
づいて少しでもなおすよう
にしていきたいと思います。



ハンセン病の人たちにもし出会
ても、やさしく接し声をかけるべき
だと思います。
秋が深まり、少しずつ朝晩が寒く
なってきました。みなさん方もりよう
よう所での生活は大変だと思
います。がどうか元氣をだして生
活してください。



なぜわれ自分になつてしまつて
馬もされたことを書いています
ぼくはこのようなことを学んで
ヤベつに對して人としてあるべきで
ないと思ひます。これからは、もつ巴々
なことがあると思ひます。が、
はてきたさい。



東北新生園にいら、ゆる方へ
はじめまして。ぼくは国分寺南
部小学校の阿部やすきです。
ぼくは、そう、今の勉強で二
か月前からハンセン病につ
いて学習をはじめました。
ハンセン病の人は子どもを産
むことをきなしされたり、うよう
所に連れて行かれて、一度りうよう
所に入ると外に出られないう
たいだったことを知りまし
た。
非常につらかったことだ
と思ひます。また強
いてきに名前を変え

児童の皆さんからの絵



お び か しゅう た
小比賀 嵩 太



あ ぶ ふう き
阿 部 風 毅

5年生 岡 田

ひびき
響

東北新生園にいらしゃるかん者さんへ
少しづつ寒くなってきたこの季節、
節いかがお過ごしでしょうか。
私たちは今年ハンセン病について
学習しました。ハンセン病の人
たちに対する、ひどい差別の数
々を知り、心が痛みました。
私は、ハンセン病になると、家族
から放され、強制的に隔離さ
れ、周囲から差別され、家にも
帰れない、そんなひどい環境
の中でも負けずに生きてき
たみなさんを、心
から尊敬します。
ハンセン病への



かん違いで今までされてきた差
別を、これからは私たちの手で、
差別のない、だれもが笑顔でく
らせる世界にするために、みんなにこ
のことを伝えていきたいと思っています。
私は、これまでつらいことがあっても
強く生きてきたみなさんに、これから
は自信を持って、胸を張り生きてほ
しいと思います。
どうがみなさん、これから寒い季
節になります。お体を大切にし
てがんばってください。

国分寺南部小学校
岡田響





岡田 響 ひびき

児童の皆さんよりの絵は12月1日より
治療等廊下に飾っております